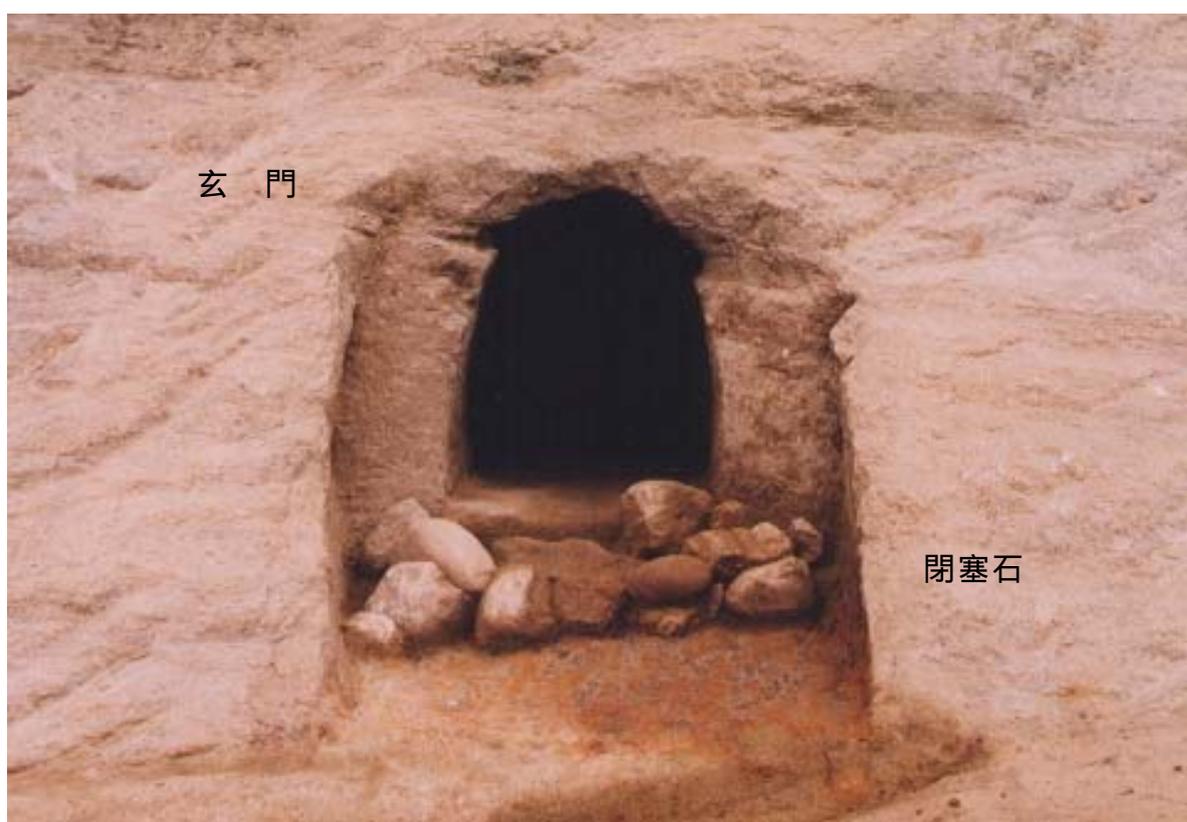


2004.9.28 (火)・2004.10.3 (日)

矢本横穴墓群

現地説明会資料



矢本横穴墓群 7 1 号墓

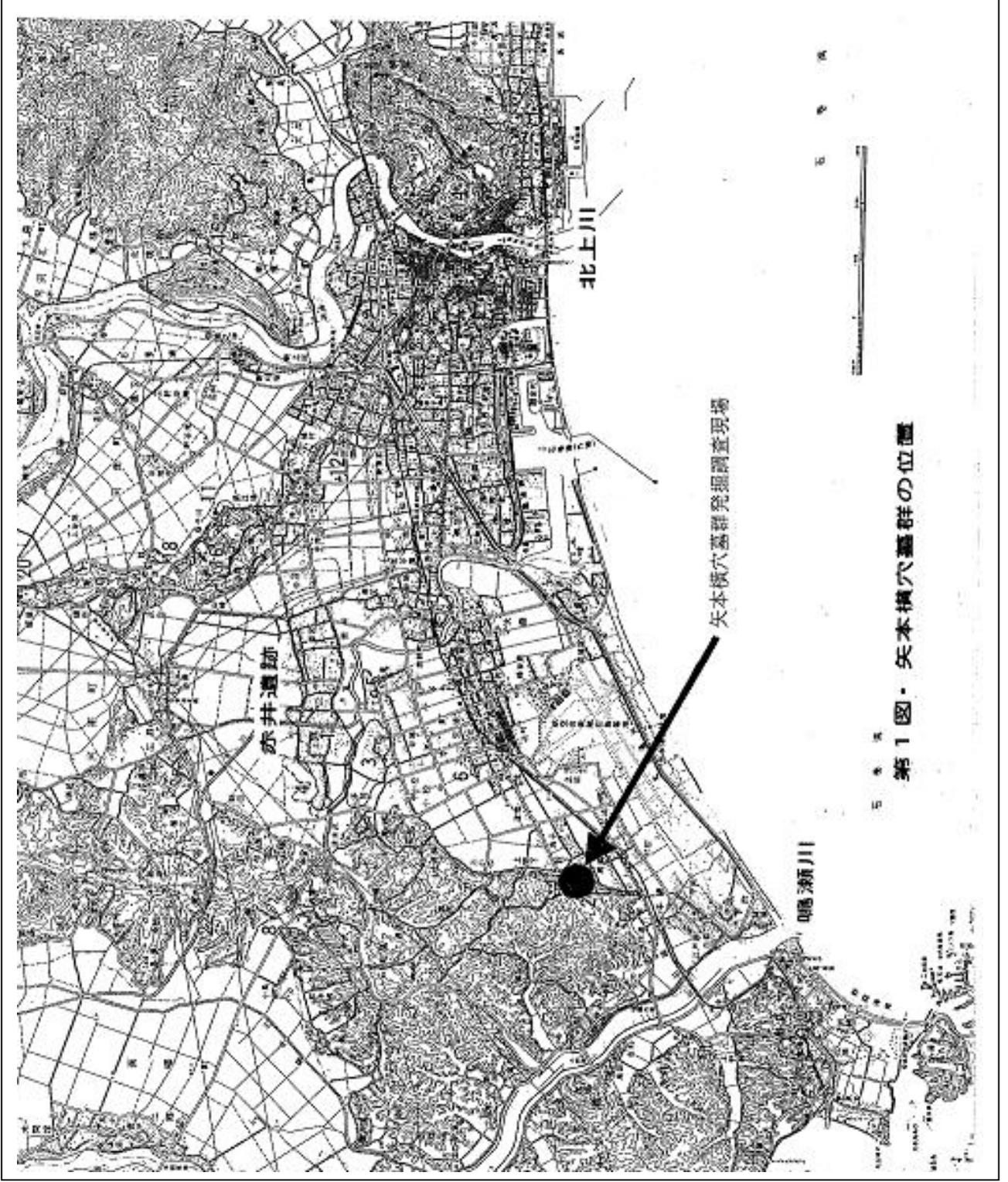
矢本町教育委員会社会教育課

調 査 要 項

1. 遺跡の名称 矢本町史跡 ^{やもとよこあなぼく} 矢本横穴墓群 (宮城県遺跡搭載番号 67008)
2. 調 査 名 矢本横穴墓群発掘調査 (第3・4次調査)
3. 遺跡の所在地 宮城県桃生郡矢本町矢本字上沢目地内
4. 調査面積 約3,000 m²
5. 調査期間 平成16年6月15日～10月
6. 調査主体 矢本町教育委員会
7. 調査担当 矢本町教育委員会 (教育長 阿部英雄)
8. 調査原因 災害復旧治山工事に伴う発掘調査
9. 調査協力 宮城県教育庁文化財保護課、宮城県石巻振興事務所、東北大学大学院医学系研究科、日本植生株式会社
10. 調 査 員 矢本町教育委員会社会教育課 佐藤 敏幸、澤口 美幸
宮城県教育庁文化財保護課 後藤 秀一、須田 良平、佐藤 憲幸



矢本横穴墓群発掘調査開始時期の発見状況



第1図・矢本横穴墓群の位置

1 . 矢本横穴墓群とは？

矢本横穴墓群は矢本町の西部、鳴瀬町と境を接する矢本町矢本字上館下、上沢目の丘陵斜面に分布する、飛鳥時代の中頃（7世紀中頃）から平安時代初め（9世紀初頭）まで営まれた古代牡鹿地方の豪族や役人のお墓です。標高 30m ~ 40mの高さに南北約 1.5 km にわたって分布し、その数は 100 基を超えるものと予想されています。

2 . これまでの調査

昭和 43 年、44 年に矢本町史編纂のために発掘調査が実施されました。今回の調査区から南西約 200mの地点で、7基調査しました。その結果、当時の古代史をくつがえす発見があったのです。

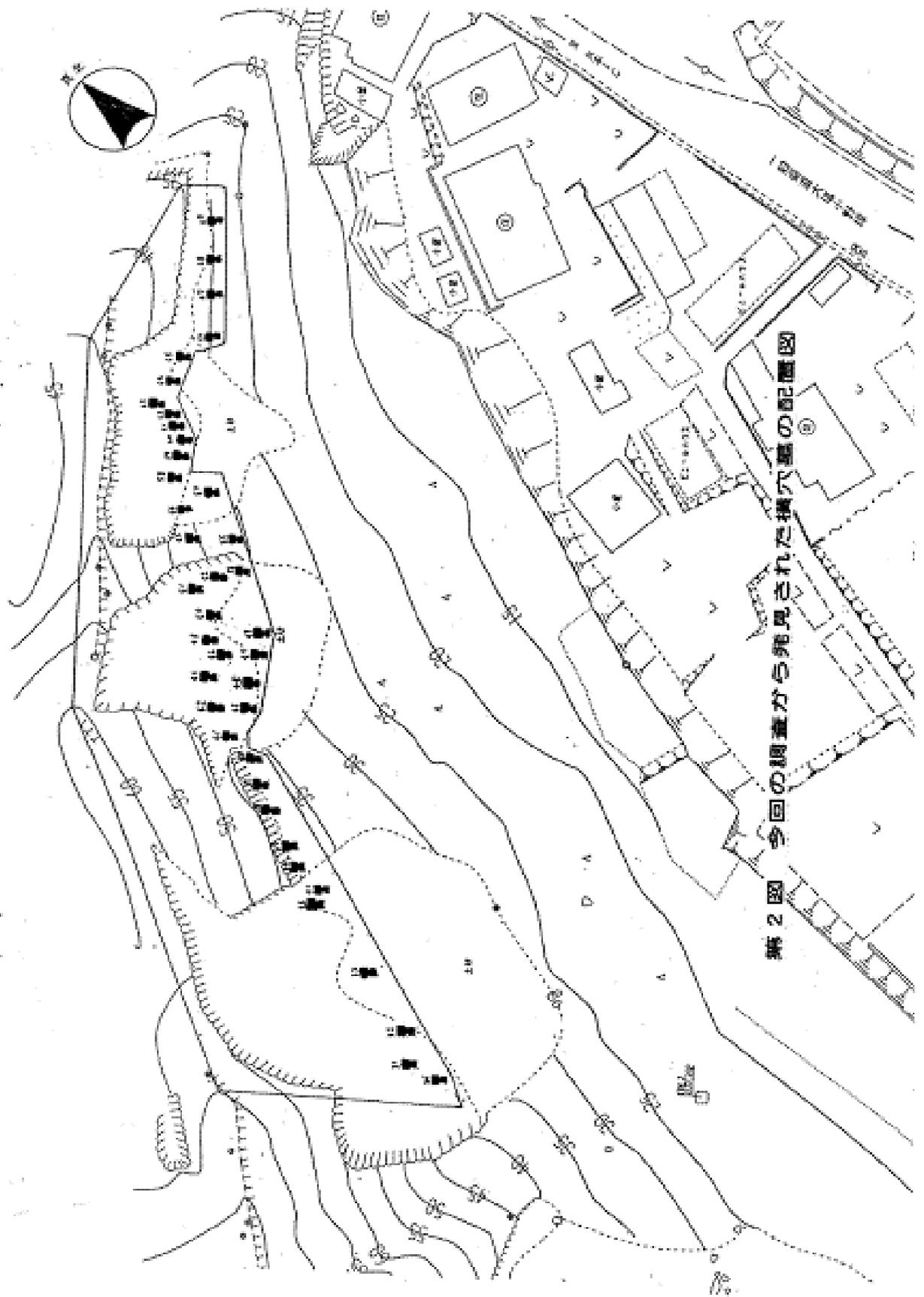
ひとつは、線刻で円を 2 つ描いた壁画があったことです。日本で最も北の壁画をもつ横穴の発見でした。

2 つめは、出土した土器の中に墨で「大舎人」と書かれたものがあったことです。「大舎人」とは、飛鳥藤原宮あるいは奈良の都平城宮に勤務する役人の役職名で、地方の一般の人では着くことのできない役職でした。当時の古代史では、このあたりは蝦夷の地で、倭の版図に入っていないと考えられ、ましてや都で役人を務めた人物がいることなど考えられなかったからです。また、古代牡鹿地方の役所である赤井遺跡や有力豪族道嶋氏との関連が考えられ、矢本横穴墓は当地方の官衙官人を中心とした墓域であると考えられるようになったのです。

3 つめは、矢本横穴墓の形態が千葉県房総半島の太平洋岸に分布する「高壇式横穴墓」に似ていることがわかったことです。「高壇式横穴墓」とは、羨道と玄室の境が一段高くなる形態のものです。また、出土した土器の中には、在地のもの他に関東の千葉県のものに類似する土師器や、静岡県湖西市で生産された須



矢本横穴墓群 28号墓の壁画



第2図 今回の調査から発見された横穴墓の配図図

恵器がありました。副葬品の中には岩手県久慈市産の琥珀玉もあり、予想をはるかに越える広域に交流していることがわかったのです。

3. 今回の調査

昨年7月に発生した「宮城県北部連続地震」により、矢本横穴墓群のあるこの丘陵斜面の土砂が崩れ、災害復旧工事をするようになりました。工事箇所の中に横穴墓が10基ほど見つかったので、工事担当の宮城県石巻振興事務所や宮城県教育庁文化財保護課と矢本町教育委員会が協議し、工事範囲に発見された横穴墓を調査することになりました。

工事計画に沿って土砂をよけたところ、40基の横穴墓が発見されたのです。

4. 発見された横穴墓の概要

今回の調査区から40基、南西に300mほどの調査区から2基の合計42基が発見されました。発見された順に31号墓～73号墓までです。そのうち、37基を調査しました。

発見された横穴墓の約半数は1300年の間の土砂崩れで、前半分が既に壊れていました。

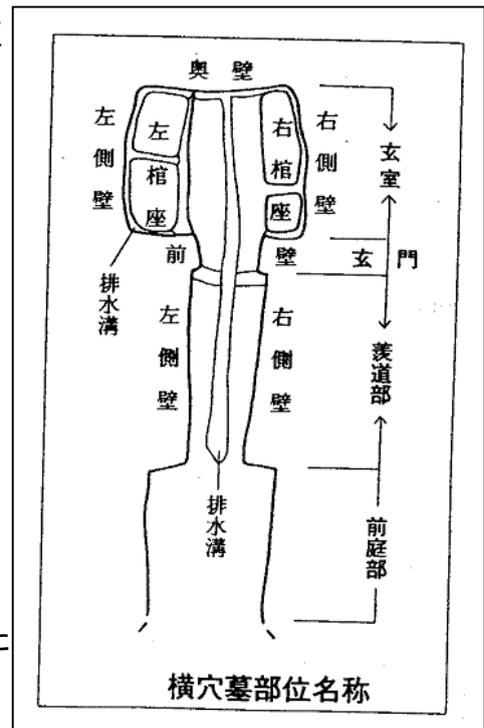
横穴墓の形態

今回調査した37基のうち、羨道部と玄室の境に段差の無い、在地に流行したタイプが15基、で羨道部と玄室の境に段差のある「高壇式」と呼ばれるタイプが11基、形態不明のものが11あります。「高壇式横穴墓」は坂東の上総東部（現在の千葉県太平洋岸）で流行したもので、矢本横穴墓では高壇部が100cmから30cmほどのやや退化した形態と考えられます。いずれにしてもこの形態の横穴は周辺には見られませんから、飛鳥時代から奈良時代にかけて上総国と密接な関係があったものと考えられます。

玄室内部の特徴

玄室とは遺体が収められた部屋のことです。

広さは約3～2m四方形で、平坦なものが多いようです。中には、棺座と呼ばれる玄室の中でも一段高く設けられたものや間仕切り用の仕切り溝が壁に掘ってあるものもあります。また、玄室の外壁側や中央に排水のための溝があるものが多くありました。



玄室の高さは、2m～1.3mほどで、天井はドームの形をしているものや、家のような形のものがあります。

玄室内部からは、多数の人骨のほか、勾玉、管玉、琥珀片、鉄製直刀、刀子、鉄鏃、須恵器平瓶が出土しています。

^{げんもん} 玄門の特徴

玄室の入り口を玄門といいます。

幅70cm、高さ110cmほどの半円形の狭い入り口で、入り口の手前下には、門を板で塞ぐための溝があります。さらに、左右の外側壁には丸い穴があり、棒で板を抑えたものと考えられます。閉塞溝の前には、閉塞石とよばれる人頭大の石が積み重ねてあるものもありました。

^{せんどう} 羨道の特徴

羨道とは、玄門にいたる通路です。

幅2m前後、長さ4m前後、高さ1.9mほどの天井の丸いアーチ型をしています。多数の横穴羨道部の地面は火熱を受けた痕跡が認められ、炭化物層がありました。火を使った祭事が行われたと考えられます。

また、玄門付近を中心に多数の土師器坏、椀、須恵器、坏、高台付坏、蓋、甕、長頸壺、短頸壺、平瓶、鉄製直刀、金銅製耳環が出土しています。

出土遺物

出土した遺物には、土師器坏、椀、須恵器坏、高台付坏、蓋、甕、長頸壺、短頸壺、平瓶の土器類、直刀、刀子、鉄鏃の鉄製品、金銅製耳環、勾玉、管玉、琥珀片の装飾品があります。

土師器のなかには、関東の上総地方（千葉県）の特徴をもったものや南武蔵（東京周辺）の特徴をもったものがあります。また、須恵器のなかには、東海地方（静岡県や愛知県あたり）で生産されたものがあります。

刀の中には、金銅製の鞘金具が付いたものもありました。

人骨

多くの横穴から人骨が出土しています。保存状況の良好な場所では、7人前後の頭骨や大腿骨などが、片付けられた状態で発見されています。何度か追葬され、最後に改葬された可能性が考えられます。出土した人骨は、これから大学の専門の研究室で分析される予定です。今後の分析によって、年齢や体格をはじめ、お墓に葬られた人々が親族であるのか、関東地方のひとか在地の人かなどいろいろなことがわかるかもしれません。

お墓の年代と数

お墓は何度か追葬が行われているため、一定期間使われていたと考えられます。出土した土器の年代からおおよそ飛鳥時代中頃（7世紀中頃）から奈良時代前半頃（8世紀前半

頃)と考えられます。特に8世紀はじめの頃の年代のものが多ようです。

また、矢本横穴墓群は南北約1.5kmに分布することがわかっており、今回の調査地域だけで40基以上の横穴墓が発見されていることから、**全体の数は200基を超える**大規模な横穴墓群であることが予定されます。

5. 矢本横穴墓群の調査のまとめ

1. 町史跡矢本横穴墓群は、石巻海岸平野の西域、標高35m前後の丘陵斜面に長さ約1.5kmにわたって分布する飛鳥時代中頃(7世紀中頃)から平安時代初めまで使用された横穴墓群である。また、その数は200基を超える大規模な横穴墓群と予想される。

2. 今回の調査では42基の横穴墓が発見され、その年代は飛鳥時代中頃(7世紀中頃)から8世紀前半頃と考えられる。

3. 発見された横穴墓の約1/3が、「高壇式横穴墓」と呼ばれる上総東部(千葉県太平洋岸)に分布する形態に類似し、海を媒介とした人の移動といった広域の交流が想定される。

4. 出土した遺物には人骨をはじめ、土師器坏、椀、須恵器坏、高台付坏、蓋、甕、長頸壺、短頸壺、平瓶の土器類、直刀、刀子、鉄鏃の鉄製品、金銅製耳環、勾玉、管玉、琥珀片の装飾品がある。

土師器のなかには、関東の上総地方(千葉県)の特徴をもったものや南武蔵(東京周辺)の特徴をもったものがある。また、須恵器のなかには、東海地方(静岡県や愛知県あたり)で生産されたものがある。岩手県久慈産と考えられる琥珀片を含めて、関東・東海地方から岩手県沿岸の広域的交流が考えられる。

5. 飛鳥時代から奈良時代にかけての当地方は、中央政府の勢力範囲の北限地域であり、坂東からの移民政策や律令制施行など、中央の政策が反映した地域である。本調査で得られた関東・東海・東北北部との交流の内容は、それらを顕著に表すものと考えられる。出土人骨の分析を含めて古代東北を考える上で重要なデータとなった。

矢本横穴墓群は当地方のみならず、古代史上重要な遺跡であり、調査・研究と保存・保護がのぞまれる。



矢本横穴64号墓の人骨出土状況